

135)

漢方利水剤の眼圧下降作用

鐘紡病院 漢方科、眼科*、山本内科（第三医学研究会）※

○日笠 稔、樋口祥一*、今井良江*、松本秀人、山本 巖※

〔目的〕 前回の学会で越婢加朮湯の緑内障患者の眼圧下降作用について報告した。漢方薬の中には多くの利水効果を持つ生薬が含まれているが、その眼圧に対する作用についてはほとんど知られていない。今回、漢方利水剤の正常者の眼圧下降作用について報告する。

〔方法及び結果〕 漢方薬は、小太郎漢方製薬の五苓散エキス細粒、越婢加朮湯エキス細粒、防己黄耆湯エキス細粒、八味丸料エキス細粒を使用した。

眼疾患のない正常成人被験者（男5名、女5名、平均年齢28.0）に上記漢方薬の1日投与量の2/3の量を一度に投与し、投与前と投与2時間後の眼圧の変化をみた。なおコントロールとしてコップ一杯の水分（約180cc）を摂取させ飲水前後での眼圧を測定した。なお眼圧測定は、日内変動の影響を一定にするために午前9時から12時までの間で行なった。

その結果、越婢加朮湯、五苓散、防己黄耆湯投与では、それぞれ2.2、2.1、1.7mmHgの眼圧の低下が見られたが、八味丸料、コントロールでは眼圧の低下はなく0.1mmHgほどの眼圧の上昇が認められた。

〔考察及び結論〕 漢方方剤を利水剤という観点から見る場合、大きく3つに分類される。第1のグループは、茯苓、沢瀉、白（蒼）朮などの利水作用のある生薬を組合せて使うもので、この漢方薬の代表として、五苓散（茯苓、猪苓、沢瀉、白朮、桂枝）を選んだ。第2のグループは、麻黄、石膏の組合せで利水するもので、この代表処方として越婢加朮湯（麻黄、石膏、蒼朮、大棗、生姜、甘草）を選んだ。第3番目のグループは、防己を中心とする利水剤で、防己黄耆湯（防己、白朮、黄耆、生姜、大棗、甘草）を選んでその眼圧下降作用を比較検討した。その結果いずれのグループにも眼圧下降作用のあることが明らかとなった。特に麻黄、石膏を含む越婢加朮湯は、かなり低値の正常眼圧も低下させ、眼圧下降作用が強力である印象を受けた。なお眼科の聖薬のようにいわれている八味丸料は茯苓、沢瀉を含むが地黄のためか眼圧は低下しなかった。

今回の実験で漢方利水剤の多くが眼圧下降作用を持つことが明らかになった。今後これから利水剤の組合せの中から最良のを選んで緑内障治療にあたっていきたい。